



繪本通俗三國志
七編
一

21
221
61



池田東籬亭校正
葛飾戴斗畫圖

繪本通俗三國志

七編
全十冊

京攝書林

額田篁額堂

岡田羣玉堂

梓

序



竊考三國之戰。孫堅討董卓。頗
雖似義兵。其實有并吞天下之
實。奸謀非忠臣之志也。獨玄德
磊落大度。圖復於漢室。忠孝之
意。曹操倡義兵而誅董卓。亦其
人。於是卒成鼎足之勢。至後主

於例
61

而亡。吳亦至皓亡。魏亦至于真
之代。為晉武帝終見廢焉。吳魏
頗非無英雄豪傑之士。蜀特為
如孔明關張等者。左右之矣。及
乎後主之時。有姜維者。雖恒補
翼漢室。然其先亡何年。嗚呼。天
道是之邪。非之邪。儻童蒙之士。

觀此書。莫羨其奸謀之輩。而羨
其忠孝之士。以代竹馬擊鼓之
娛。常讀其國文。觀其畫圖。終至
發忠孝之志。欲天保十二年丑
之歲。歲有陶孟春之月。

提三位維長卿。御嫡男。古齡
從五位上。哲長君。

訓堂戲撰





○ 魏帝曹叡字元仲



○ 魏郭皇后

魏書卷之七

魏書卷之七



○吳諸葛瑾字子瑜

○蜀費禕字文偉



○蜀楊戲字文然

○吳陸遜字伯言



○ 蜀大将馬岱

魏延首
魏大将樂綝



○ 魏大将張虎



蜀張嶷字子均

繪本通俗三國志七編總目錄

卷之一

孔明遺計斬主雙

孔明三出祁山

孔明計破仲達

卷之二

仲達與兵寇漢中

孔明四出祁山

孔明祁山布八陣

卷之三

孔明五出祁山

木門道萬弩射張郃
孔明六出祁山

卷之四

孔明造木牛流馬
孔明蒞苦谷燒仲達
孔明秋夜祭北斗

卷之五

孔明秋風五丈原
死孔明走生仲達
孔明遺計斬魏延

卷之六

魏折長安承露盤
仲達與兵定遼東
仲達謀殺曹爽

卷之七

仲達父子執政
姜維大戰牛頭山
吳魏交兵戰徐塘

卷之八

孫峻計殺諸葛恪
姜維計因司馬昭
司馬師廢魏主曹芳

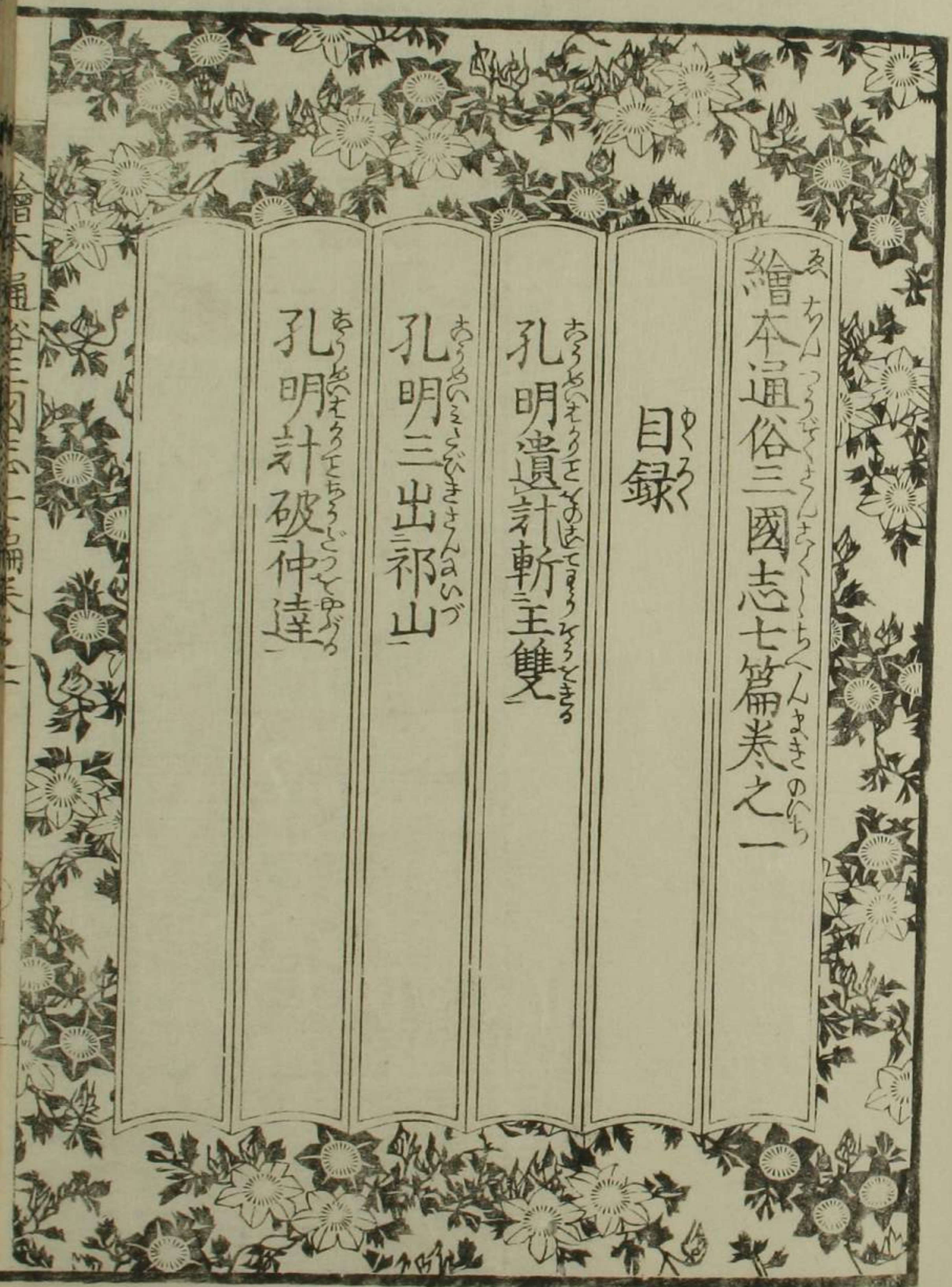
卷之九

文鴞一騎破魏兵
姜維洮西破魏兵
鄧艾段谷破姜維

卷之十

司馬昭破諸葛誕
于淮南上死節
姜維長城戰鄧艾
孫繼龐吳主孫亮

總目錄終



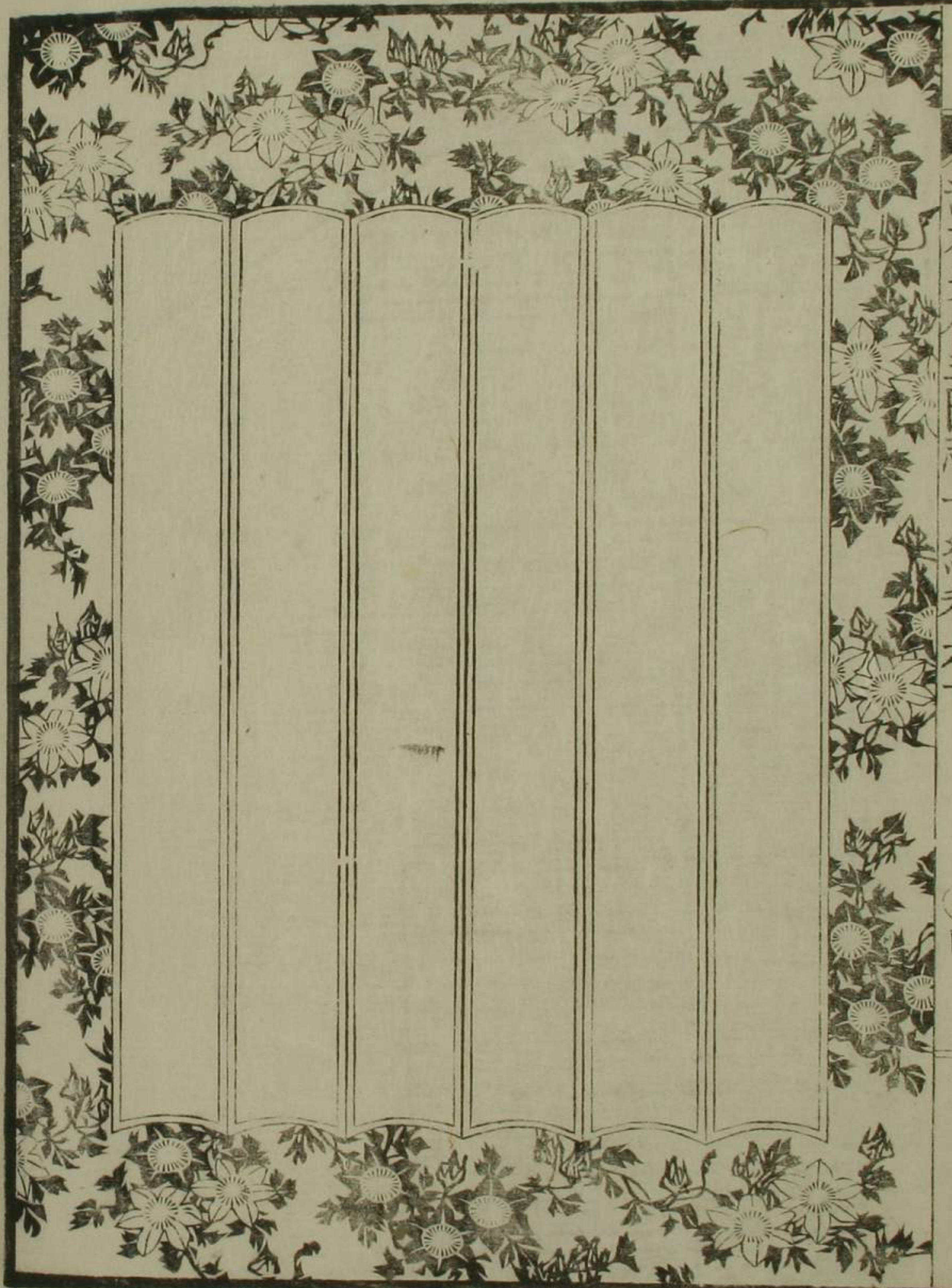
繪本通俗三國志七篇卷之一

目錄

孔明遺計斬王雙

孔明三出祁山

孔明計破仲達



繪本通俗三國志七編卷之壹

孔明遺計斬王雙

去程^{まゐり}孔明^{こうめい}又^{また}祁山^{きしん}出張^{しゅちやう}せしより曹真^{そうしん}大將^{たいしやう}討^うれ兵^{へい}損^{しん}たるは早^{はや}馬^ば急^{きゆう}とつげて援^{えん}の勢^{せい}を請^こけし魏主^{けいしゆ}曹叡^{そうゑい}いとぎ司馬懿^{しまい}を
 めして計^{えり}とを問^とふ司馬懿^{しまい}曰^いく臣^{しん}もで孔明^{こうめい}とありぞくるの
 計^{えり}あり味方^{あじかた}の勢^{せい}乃^{すなは}威^いとあは武^ぶを耀^{くわう}さててを用^{もち}ひむ蜀^{しやく}の勢^{せい}
 せして自然^{しぜん}またまらしむ曹叡^{そうゑい}よるあんで問^とて曰^いく汝^{なんぢ}が計^{えり}
 りん司馬懿^{しまい}が曰^いく臣^{しん}また陛下^{へんじや}に奏^{そう}して孔明^{こうめい}らちらば陳倉^{ちんそう}
 道^{どう}より生^なんとて則^{すなは}ち城^{じやう}を構^{かま}へ郝昭^{こうせう}に守^{まも}らせたましむば案^{あん}のど
 く孔明^{こうめい}の道^{どう}より出^いで通^とるとと得^えむ蜀^{しやく}の兵^{へい}糧^{りやう}を運^{うん}送^{そう}する
 又^{また}此^{この}道^{どう}より通^とるとと甚^{こゝろ}ど易^{やす}くと使^{つか}ありとらんとども今^{いま}郝

繪本通俗三國志七編卷之壹

昭王雙が守きひりけむ孔明あての道より運てとて
た。他の小路よりえまて之。志うるとた道路後難よりてい
でくく大軍と兼ちるべき。臣い蜀の軍勢つひやを不の
兵糧を量る。一月の用意あらん。兵糧尽るとた
うまらば引く國。蜀の勢の利を不。兵糧を
て決する。味方より。險阻をまめけて生
たて軍と休く日を送らば蜀の陣中兵糧を
まりなき去。陛下を。勅使をせ曹真。み
す。謀方の攻口をたく守り出てた。か
を。一月とて。蜀の勢の引く退ん。その
て。孔明を。孔明を。孔明を。孔明を。

く。先見の明あり。あんとて行。計を
る。司馬懿が曰く。臣身を。命と重んずる。あ
や。あひそる。呉の國の敵を拒ん為さる。呉主孫權
け。王と称する。久。近き内。帝位
陛下の征伐。人。兵を起。攻
上る。臣の。遠く。少も御心を苦。守
とた。早馬きたり。曹真志。破。引
あ。と告げ。司馬懿又曰く。陛下す。使
を。丁寧。曹真を。蜀の勢を追。と
よく。虚実を伺。重地。孔明が計。太常卿

韓暨を使として節を持て。曹真をいさしめ、出く戦ふとあ
らう。司馬懿城外に出く。韓暨を送て曰く、是の功
を以て曹真を護る。かたうを其がなりといふことある。
蜀の勢の志りぞくとた是を追掛る。又仔細あり、必む性の躁
まき人。追しむらば、輕くくまをまへ却て孔明が計ま
たらん。唯天子の勅命ありといふく。戒めたりと
いひけし。韓暨別とて打立けり。まのた曹真は蜀の勢の
せまきたらん。ゆを怕れ、諸將と計を議する。又太常卿韓
暨節を持て、勅使とて告げし。いそぎ出む。礼よりて
詔詞をうけり。退ひて郭淮、孫禮とまの事を議す。郭淮
わらひて曰く、まれとあへち。仲達が見たり。曹真が曰く、まの見

くあひひる。郭淮が曰く、まは深く。孔明が兵を用ひる法を
まじり久し。蜀を破らんもの。仲達よこゆ。曹
真が曰く、蜀の勢志りぞくと。如何せん。郭淮が曰く、ま
そま使をせせ。王雙を計をまげ。小路の門よりくせり
たく守らし。蜀の勢、兵糧尽く。一月の内、まきりぞくべし。
まのた虚の門てまを追ふ。孫禮が曰く、某祁山の路に
出く。陝西より味方の兵糧をせま。又体をり。車の上。乾
ける柴を以て。硫黄、焰硝を以て。外に青き布を張。兵糧
をのせたる車のごとく。まをせ。蜀の勢、兵糧を以て。まらば
らあ。らまを来りて。車を奪ひん。まのた。四方より火をう
けて。伏兵を出し。まを。まを。滅む。曹真よるこ

會通各三回卷一 魏書卷之一

び。其の計まへらと妙ありと云。孫礼は兵を分典て。祁山の西へ行し。又陳倉道へ人を遣し。王雙は計を授けて。諸所の道條とまさぐ。郭淮は箕谷街亭を守らせ。張遼は子偏將軍張虎を先鋒とし。樂進は子牙門將樂綝と副先鋒として。本陣を守らせ。大将の下知を聞て。毎日打ち出よと下知をある。孔明は祁山の陣あり。毎日戦ひを催せども。魏の勢固く守りて。さらし出ざりけり。たする。姜維もよび寄。今魏の勢峻阻を守りて出ざる。兵糧の尽るを料あり。殊さら陳倉の道條往來通せざりて。その外の小路より。少く運び出さといふ。ども。たおとだめ。門之艱難あり。味方貯たる兵糧一月の用。足む。如

何と云きと議する。不又忽ち告て曰く。魏の勢。枚子の車を。のり。西より祁山の西へ兵糧を運び。大将へ涿郡容城の人。孫礼字徳達とや。ものあり。孔明問て曰く。孫礼。い。う。ち。の。人。ぞ。降。参。の。もの。あり。と。答。て。曰。く。ま。の。人。む。う。魏。主。ま。た。た。が。み。て。出。て。大。石。山。に。獵。を。お。と。忽。ち。大。ち。る。虎。を。獵。出。せ。り。虎。怒。り。て。魏。主。の。前。に。飛。か。る。と。孫。礼。馬。より。と。ひ。下。を。抜。て。斬。死。せ。り。ま。ま。ま。より。て。用。ひ。ら。し。上。將。軍。を。封。せ。ら。る。孔。明。笑。て。曰。く。ま。れ。魏。の。大。將。を。陣。に。兵。糧。の。と。お。し。か。ら。ん。と。を。量。り。車。の。上。に。乾。け。る。柴。を。積。む。兵。糧。の。と。く。ま。え。せ。る。が。奪。む。ん。と。て。蒐。り。あ。べ。火。を。付。て。や。き。討。ま。せん。と。の。計。あり。ま。ま。平。生。の。門。を。ら。火。攻。を。用。む。と。

いさでり。我をわざむき得ん。今勢車と奪ひんとて打出す。魏の勢虚の月と。本陣をちとて之。敵の計又就て却て計を用ひんとて。馬岱をゆして曰く。汝ハ三千余騎を引て魏の勢兵糧の車とあつち置たるを又行と。軽くしてその内へ入る。たゞ風上より火をうけよ。火のゆゆとて魏の勢あつちを。我本陣をちとて之。我ハ馬忠張疑又各五千余騎を付と。本陣の外又伏置内外より夾をさんで討んといひけと。お計を領して出とけり。次又関興張苞をよんで曰く。魏の勢のうけあつちとる陣屋へ四方の道と連ふれり。今夜西の山と火の起るとえ。魏の勢あつちを。今本陣を攻と。汝二人へあつち敵の陣逃く伏と。くはる。

出ると伺ひ虚の月と。敵の陣屋と奪ひとれ。又吳班吳懿をよんで曰く。汝二人へあつち一軍を引と。本陣の外又伏せ魏の勢きたつと。其咬る路と塞げと。手分をせよ。りけと。孔明もつと。祁山の頂と登り。西と望んと坐し居り。さるちどと魏の細作ひと。蜀の陣を窺と。兵糧と奪へんとて。尽く祁山の陣と。打出る体と。えへけと。いせぎとの由と。孫礼と報と。孫礼又曹真と告げと。曹真と。乃ち張虎樂綝をよんで曰く。今夜西の山と火り人出と。蜀の勢尽く出と。祁山の陣へ空虚あると。汝二人まきと。あつちよせて陣屋と奪ひと。下知しけと。二人計を受と。兵と調樓の上と。人を登せと。火のりると。伺はせける。たのと。孫礼ハ

おかくの車と山のうたから集めたる谷の内又兵と埋伏し蜀の勢も車と奪つんとて来りあべ一度又打て出く火を掛よとて鳴と志がめと待居たりその夜の三更の比蜀の大將馬岱三千余騎を率し人へ放と含と馬へ口を勤し直ち又西の山又をせ来りける又枚十の車重疊とし山のどく車の上又おろく旗と夾さんなり折節西南の風ふきければ蜀の兵走りちりて南の方より火をうけたりける又乾ける柴又火もへ付と光天を焦がてくちり孫礼志をえてとへや合図の火を付たるぞ一人もあぬさまで討取とて一度又吐と吐けとバ忽然とて後より鼓角天をくぐりて二平の勢殺到し真先又進む蜀の大將馬忠張嶷ちり孫礼駿

ろま取て回しと拵とんとてとて又噓とどめとあげて蜀の大將馬岱山の光の中より討てかり三方より攻けし孫礼が支度相違しと討てその數と志らばたまく命と助るそのも剣を被り焼たてとてとて又逃回るんごはかりけるありさなる張虎樂綰の孫礼が敗れたるをも志らば西の山又火のかりたるぞと合図の刻限又ちりぬとて尽く兵と引具し蜀の本陣又ちよ勢ひののけて打入ける又敵一人も見へざりしと切の計又あたりたり早く出よとよびる蜀の大將吳班吳懿二手の勢討て出く路とさきまがりさんぐ又蒐立けし魏の勢のまりとてとて我またと逃走り本陣へ入らんととてと矢倉の上矢間の陰より雨の降とて矢

と射止し。蜀の大將関雲、張苞とて陣屋と奪取ぬき連
 て斬り出し。張飛、樂進、又とびく。討つ。曹真が陣を
 落めし。とた。一手の敗軍。お焼た。せ。せ。回りけ。せ。せ。
 共。孔明が計。中。兵。あ。七。び
 ぬ。と。告。け。し。曹。真。ち。ど。ろ。ま。怖。し。の。後。よ。り。へ。堅。く。要。害。を。引
 ち。の。り。し。一。人。も。出。る。も。の。あ。り。け。り。蜀。の。諸。大。將。へ。尺。く。分。取。高
 名。せ。ど。し。い。ん。の。ち。く。十。分。は。勇。將。の。く。祁。山。の。陣。を。回。け。れ。ば
 孔明。い。ま。ぎ。人。も。陳。倉。道。遣。し。て。ひ。そ。ろ。魏。延。の。計。を。さ。げ。け。は
 謀。所。の。陣。を。収。め。回。る。楊。儀。お。や。志。人。で。問。て。曰。く。今。味。方。戦。ひ。ら
 け。て。魏。の。勢。を。お。膽。を。ひ。や。し。魂。を。失。ふ。ま。り。る。と。尽。く。回。り。あ。ら。い。
 お。ま。ゆ。人。ぞ。孔明。が。曰。く。我。軍。と。出。し。て。魏。を。攻。む。我。病。と。敵。の。ま

ら。ぎ。る。人。も。あ。り。我。病。を。あ。ら。い。兵。糧。も。り。味。方。の。利。を。あ。ら。い。急
 戦。ひ。と。決。ま。り。今。敵。は。た。く。守。り。を。出。合。を。道。條。ふ。さ。が
 け。て。運。送。絶。た。り。我。病。又。発。し。る。是。故。退。く。ん。を。あ。ら。い。今。魏
 の。勢。を。破。る。洛。陽。も。あ。ら。い。接。の。勢。あ。ら。い。輕。騎。と。り。の
 て。我。回。る。路。を。あ。ら。い。その。と。た。如。何。し。と。回。る。と。得。ん。と。あ。ら。い
 魏。の。勢。を。生。む。る。あ。ら。い。今。盡。く。あ。ら。い。我。患。る。も。の。へ。陳。倉。道
 を。守。る。魏。延。が。一。軍。も。り。王。雙。と。相。對。を。あ。ら。い。と。あ。ら。い。と。あ。ら。い
 ぞ。き。難。う。と。是。ゆ。人。も。魏。延。の。計。を。さ。げ。け。て。王。雙。を。斬。死。さ。し。か
 ぞ。魏。の。勢。あ。ら。い。追。来。ら。し。今。夜。後。陣。を。志。と。ひ。く。と。あ。ら。い
 ぞ。け。し。と。夜。を。入。け。し。と。金。鼓。を。打。す。の。を。あ。ら。い。少。く。の。あ。ら。い
 と。常。の。と。く。分。明。な。時。刻。を。打。せ。く。人。あ。る。体。を。あ。ら。い。祁。山。の

陣を引拂く。一夜の中み尽くまりぞきける。魏の陣より曹真が
びくく人馬と討れんの中憂ひ苦しく固く守りて出
ざる不ふ都より左將軍張郃一軍を引く下着せり。曹真よ
び入るに對面せしむ。張郃が曰く。某勅命をうけるの軍の
様で伺へん為まきたり。曹真が曰く。御邊きたるとは。司馬
仲達よの逢ざり。張郃が曰く。今某がきたる。元仲達が
料ひちり。路より兼めんと。孫礼計を仕損ど。味方をま
なく討まぬ。其後蜀の陣を伺ひひり。曹真が曰く。あの
比大に打破られ。其のち一人も外に出ず。張郃が曰く。某が
都を止るとは。司馬仲達がせし。蜀の勢。兵糧の事を欠と
りとも輕くく退く。魏の勢。たかり勝るとは。孔明の

まで陣を守り。魏の勢戦ひ負るとあらば孔明が
らむ退き去ん。とまある。兵家の玄妙あり。試
み入を出一く。伺ひせり。曹真あへて信せむ。ひそく人馬を
どしどしらせし。免れんを果して蜀の陣より十面の
旗をかり立て。人ひとりもあらず。孔明志りぞひて。已に兩日
とまぎたりといひ。ひげむ。曹真頭を搔く。後悔し。張郃
よ命どて。まう追まむるといふ。卒よその甲斐もあ
りけむ。あのとれ。陳倉道よの初より魏延が一軍。王雙又を
さへて居たり。孔明ひそく計とき。けり。其夜乃
二更に魏延陣屋を収め。圍を回す。王雙の事を聞て。自ら
大軍を率し。勢ひよ。二十里めぬ。追蒐けむ。とて

て魏を伐めんとすむるをのち孫權猶預りて決せざる
不^レ張昭とて出でて曰く近^レ武昌の東山は鳳皇來儀の
大江の中^ニ黃龍出現す。今君の德唐虞に配し明文武に
並べり。今皇帝の位に即ぐ。そのち^ニ魏を伐め人滿坐を
志^すと一^つと^つ遂^に四月丙寅の日を扱び武昌乃南
郊^ニ壇を築き孫權を請^じて扶^け登^せ大禮と^すく
具^す祭の礼^を了^りけ^して天下^ニ大赦^を行^ひ黃武八年^を黃
龍元年^とあら^した^り父の破虜將軍孫堅と武烈皇帝と益
母の吳氏と武烈皇后と^し兄の討逆將軍孫策と長沙桓
王と号^し嫡子孫登と皇太子と^し諸葛瑾が子^を諸葛恪と太
子左輔と^し張昭が子^を張休と太子右衛と^し諸葛恪字^を元

遜身の長七尺抗頰廣額^{なり}鬚眉寡^{なり}色^をあ^ら青高
み^と極^く聰明^な應對^を能^し孫權常^にと^りて愛^し
て^いと^はあ^まより^に傍^に侍^せし^む諸葛恪が六歳の^{とき}酒宴の
席^に孫權^が父の^{諸葛瑾}字^を子瑜^と顔の長^きと
一匹^の驢馬^を引^せと^り粉^をり^て馬^の面^に諸葛子瑜と
書^ける^に滿座^腹を^かく^大笑^し諸葛恪^はけ^りあ^ま心^に
父^の笑^はる^を患^ふひ^をめ^りけ^り願^はく^筆を^借こ^二二
字^をと^りんと^す諸葛子瑜^の驢^と書^ける^に諸人^も驚^嘆せ
り^{その}聰明^{ある}こと衆^をあ^らける^人今輔佐^とし^て太子^に侍^せ
し^む孫權^も帝位^に即^ぐ顧雍^を丞相^とし^{陸遜}を上將
軍^とし^共太子^を扶^け武昌城^を守^{らし}自ら^に建業^{より}

りけりて群臣とを魏を攻んとせむ。張昭が曰く。陛下をたもて
 室位を登りて。民の心いませ。服せんと。兵を動かさず。つたむ
 只よろしく文を修し。武を伏す。學校を増設け。民の心を安
 くし。人まが蜀の國へ使を遣し。いよく好むさんて。天下を
 平分せんと約し。幾くと計をありし。孫權の儀美
 もとこ。いとまき。國書を修し。成都へ使を遣し。けりて。後主
 劉禪。群臣とありめ。大の事を議し。身。蔣琰が曰く。そ。中
 漢中へ使をせ。孔明を告め。後主とあり。陳震をゆめ。と
 孔明。よの由と告め。孔明が曰く。大の方より。使を遣し。と
 禮物を送り。即位の賀を述べ。いよく唇齒の交をむ。び。吳の
 勢を起し。陸遜を魏を攻させ。あ。魏をあら。司馬懿を冷

て拒がり。人司馬懿。り。吳と戦。我。又。虚。の。ゆ。て。祁山。よ
 り。生。長。安。と。取。ん。と。魏。の。勢。ひ。を。分。け。の。計。と。あり。と。直。よ
 陳震を使と。名馬玉帶金珠寶貝をさげ。吳。行。し。陳
 震。と。建。業。へ。入。り。禮。物。を。さ。げ。賀。の。孫。權。へ。て
 國書を呈し。けり。孫權。大。喜。び。酒。宴。を。設。け。て。あ。り。と。て
 ち。返。書。を。修。り。送。り。回。り。陸。遜。と。あ。り。と。魏。を。攻。る。の。ゆ
 せ。議。し。け。り。陸。遜。が。曰。く。大。の。方。より。孔明。が。司。馬。懿。を。怕。る。の。ゆ
 くり。と。あり。已。好。む。と。上。の。從。へ。ん。ば。あ。ら。ん。と。臣
 す。兵。の。銳。氣。を。や。し。あ。ひ。あ。り。と。孔明。が。魏。を。攻。る。と。い。ふ。ゆ
 急。ち。あ。り。と。え。と。伺。ふ。と。虚。の。ゆ。て。攻。り。ち。あ。ら。ん。と。洛。陽。を。取。ん。と
 掌。中。の。あり。と。て。荆。州。襄。陽。の。軍。馬。を。そ。ろ。へ。假。し。魏。を。攻。ん。と。す

鳳凰



吳國武昌の
東山又鳳皇
來儀
大江又黄竜
出現を

黄龍



る体をもせせ。日と押んで打立とぞ披露しける。陳震直
 二漢中又回り孔明又見え。孫權が兵を起し。魏を攻るよ
 一と告げし。孔明さらば時とやむらさき。此方より攻蒐
 れとぞ。兵を調へける。陳倉道に魏の大將郝昭が城を構
 て守りたる。心又患ひく。輕くし。進み得む。ひそく人
 を遣し。その様を伺ひしる。その人入り来り。陳倉城の
 郝昭より病を受く。已に危しと告げし。孔明は驚か
 くよろおび。事をせ。成就せり。まじ。姜維魏延を呼
 ぶ。曰く汝二人五千余騎を引く。夜中に陳倉の城を奪せ。城
 中又火のおある。とて力を併せ。攻破し。姜維魏延の心を
 まらと。何とこの日。打立ゆ。んと問ふ。孔明は曰く三日の内。

用意して。我を再び問ふ。おまへも。早くとをせ向へ。二人命を受
 て。志りぞきけし。孔明又関真張苞をよびよせ。耳を付けて
 計をまひけし。と命を受く。退散せ。おのち陳倉の
 城に郝昭病を伏せ。已に危く。張郃あはし。聞て
 洛陽へ表を上り。代の大將を乞ける。路遠し。と。代
 志やんと難く。郭淮の変わらん。と。怖し。張郃は
 うめて曰く。郝昭もとより。我と交ると至り。深し。今病す
 で。急ちり。都の左右を待たせ。御辺を。行て。ろ
 かり。我の由。天子に奏せ。張郃あはし。志と。ひ。の
 ら三千余騎を率し。夜に日。継ぎ。陳倉城を奪せ。む。く。
 かの夜。郝昭病を。あへど危く。呻吟し。居たり。が。俄に蜀の

會本通鑑三回志一終卷之二

軍勢城下よであしよせたりと。城の内さへぎけ且つ先人をい
 どくくせしむるも早謀所の門く火をりけて喊の音大に
 ひき上と下へと騒動しけ且つ郝昭なましんと失ふも忽ち
 又死をも蜀の軍勢四方より込入内外より攻よりいへ城中の
 勢尽く降参しと。片時が間又かの内より静りけり。姜維魏
 延の浩るるゆと夢も志もまじり城の辺又あしよせその体せ
 伺ひけるも立たる旗の一面もまじり更人ありともんじりけ
 る二人もどろまきあやむるも忽然として一色の鉄炮ひき
 て四方よりくくの旗とさめんとさしあけり且つ姜維魏延打駈
 き馬とひくへくまじりてくるも一人縮巾をひきき鶴髦と被て手
 又羽扇を持矢倉の上より音とあげて汝二人あまして去るま

かりとるとよつる。是をあやち孔明ありしと。二人馬より下
 て地を拜伏し。軍師まよと神計ちうといひけ且つ孔明門を
 ひらいて二人をよびいへ今我つねまたの城の守り堅固にして攻
 ぐたきとと患ひ人々遣りて伺へしむるも郝昭が病まをて
 ちりしり。我汝二人も三日の内打立と命どろへ謀人
 の心と穩しせん為さる。我却て関興張苞も一手の勢をつけ
 て夜中も漢中へ出し。我自その内まじり居る。終夜道とい
 るまき不意も城下まであしよせ敵も兵を調のふるり得ざ
 らしむ先ひするも城中も忍て入るも内より火をりけ
 させ内外よりさうてさんで破る軍も主將あまきとたへり
 あらたてし内より乱る。我まのゆえなやましく破らんとしてま

兵法又山其不意攻其無備といふ是ちなり。今却昭を
て死と見ども我をあへどその忠義をあらはし早く屍を柩
よ入る妻子とも魏を送り回しその忠をあらはせし
といひけしと姜維拜伏し曰く丞相の兵を用ひる今んと
鬼神も測りなく仁徳も亦厚し某ホあまを患ひんやとて
志りぞひて出んと志けしと孔明曰く汝二人甲と卸とあ
れを今兵を引く散關をたしひとれ関を守り魏の勢汝亦が
まう又攻ると見ばあらむを棄て走るべし若行と遲延せし
敵の生手くかりて攻るとも破るとも得し姜維魏延いそぎ
兵を引くちよせちめき呼んで真地暗に攻上る魏の勢を
りあへてさまぎ戦へしとさんぐま走る姜維魏延念ち

関と乘取いざや甲と卸と休んといふとまう又遙く馬烟を
こ立ち魏の勢をびくくしとせ来る姜維をうひて曰くされ
ばつと丞相の計は生むり行とおそきとれ魏の大勢まこ
らんと言ひしが今果しと此のどしと魏延と矢倉の上
てまると見しと魏の左將軍張郃ありそのとれ張郃へ却
昭を代らんとし来りけるが早陳倉の城破し蜀の勢散
関まで出たりと告るや入るまきうと引回さんとさる魏延
後より追蒐しと魏の勢をまき乱し我をさきましと落失ける
姜維魏延の由を注進しけしと孔明曰く天軍を引
陳倉斜谷よりまきと建威を攻落しと祁山を出けしと
成都より大將陳式後主の勅命を承り入り生手と引て死

加る孔明諸將とありけり。曰く我とん二度たのふも出
てその利を得む。今又たよるよ出て陣を屯をも故に魏の人お
らむ旧戦の地よりそ我と拒ぎ蜀の勢より雍郡の二
郡を取んと計之。かあるも兵をまひけて此二郡を用心とす。我
陰平武都の二郡をとるよ漢と境をはらねり。わすの
城を攻取む魏の兵のいまあひて分門べし。誰う行くまよと
らん姜維王平ひとく出く曰く。後をく行く孔明を
ち姜維二萬余騎を付く。武都を攻させ。王平二萬余騎を
付く。陰平より入る。魏の左將軍張郃の長安より引退く。
郭淮孫礼と相護り。郝昭をもてせむ。蜀の勢散関をせぬ
と。孔明又祁山より出く大軍を屯ると告げし。郭淮大

おどろひて曰く。志うるとは孔明あらむ。雍郡の二城を取
ん張郃の長安を守りて。蜀の兵より入る。郭淮と固く孫礼
は雍城をまもりし。蜀の兵とて兵を分て打立。蜀の洛陽へ早
馬をとるを討手の勢をぞしける。魏主曹叡を
告ぐ。膽を冷たむ。又近臣奏し曰く。近ごろ滿寵等
急を告ぐ。吳の孫權たご皇帝の位に即。蜀と好むと
んで陸遜と大將と武昌の勢をそる。攻蒐る勢ひを
さしと告来たり。曹叡兩所の急をきい。おどろき今
大將軍曹真の病を伏く。いさぐ起た。先づ引退くべき
と。司馬懿とよんで問けし。司馬懿が曰く。臣が愚意と
ゆひて計る。吳の孫權が攻来るとや。あらしを詭よる

へん曹叡が曰くその故いらん司馬懿が曰く吳の孫權本より江東の八十一及び保つてそのふ不足あり志ろあひ乃外に陸遜刺及て攻取し孫權をろ其たをきたりと思へり今又帝位を登る民のん安らるる争ふ輕く大軍をかたさなき蜀の孔明の先主玄徳の恩をあひ街亭の取てさぐんとしてあひし卒に吳の國をも滅おしと漢の天下一統の功をあさんと謀ととも力足ざるが故も志づらく吳と好むをひ兵を起し魏を攻るといふも吳の孫權が虚ののりて成都をあつんとて相と使をりて交を固し吳の勢をまよしと假味方と攻るのいまあひとあさし中國をどろろんととも吳も又はゆる魏を攻んとあひととも蜀の勢の虚を乘

て来らんとして悼りいあがら成敗を伺ふ今吳の國より攻来るといふ詐の計よく蜀の勢の祁山も出たるは真実の情ありといひけし魏主曹叡嘆と曰く卿はまこと大將軍の才ありとや打向ひて孔明を破ると即時に大都督と封し近臣と曹真が府中へ遣し總兵大將の印を取来りて司馬懿もさびけしとまけしと司馬懿が曰く臣は陛下の詔をうく方死むあんど辞をるとあらん總兵の印は臣もつら行く精取のいんと卒に退いて曹真が府中へ到り病を問うて曰く吳の孫權がつら帝位を登て大軍を起し陸遜を大將とて攻上らんと企蜀の孔明又祁山も出張しと兩處の早馬急を告ると雪の飛よ

頻頻下。足下これと聞ゆ。曹真おどろひて曰く。病も
伏す。曾て志らむ。國家此のどく危し。天子をんぞ御
と都督として。孔明を拒げしむ。司馬懿が曰く。某
へ才薄く。智浅し。安んぞ其大任を領ぶべき。曹真も
ら起上り。搃兵の印を授けり。我の此のどく病を得たり。御
辺の職を領すと。國家の急を救へといひけし。司馬懿
固く辞して曰く。都督愚を蒙り。某一臂の力を助けて
との忠を致さんと。搃兵の印。某をんぞ受ることを得ん
やとて。再三およぶ。受ざるべし。曹真が曰く。御辺は
の印を受ざるべし。中困らるるを危くし。我の病
と。天子を見へ直し。奏せんとて。又床の上

伏けし。司馬懿が曰く。天子とて。某を召す。其の職を任
ドのどく。某が才の薄を顧み。めんて受む。曹真入る。喜び
とて。詔ある上。おんぞ辞する。とあらん。御辺を打
立。孔明を退けよ。我病を療む。のち共蜀を攻む。
る。として。とあへち印をさしけし。司馬懿とて。受取天
子を見。右の由を奏す。十万余騎を率し。長安を發向
。孔明と共に智を闘はむ。

孔明計破仲達

蜀の建興七年夏四月。孔明祁山にありて。三谷に陣屋を
り。魏の勢。いまや来ると。相待けり。司馬懿。十万余騎を
張郃を先鋒とし。戴陵を副將とし。直渭水の南に

たつとあつても甲斐あらず。さ令退くんと議せしむるも敵の
合図とぞちて一色の鉄炮耳根にひびきく山の後の松蔭よ
り。一手の勢うがまき出たり。魏の軍兵魂を失るまで。遙くの
ぞくへ漢の丞相諸葛孔明と書たる旗をさしあげて中央より
一輛の四輪車をさし出し。孔明の上は端坐して関兵張苞
を左右よりさし笑ひて中ける。郭淮孫礼逃るにあらざり。司
馬懿が計をりて争ふをわざと得ん毎日祁山の陣に
軍をさしけ。その間も汝二人を我後へ廻さんとも武都陰平
へさし已に攻取たり。汝も今馬より下り降参せよ。又兵を
戦へかく快く勝負を決せんくと。よづりけしと魏の勢をさ
色を失ひ。たゞ追ともさく。我をたふすと。さんぐもまけるも

忽然として喊の音天地を動し。姜維王平二手の勢殺到
し。引包んであまさとどと攻けしと魏の勢討る者其數を
さる。適命を助るものも。甲盛をぬぎさて赤裸さあつて走
けり。郭淮孫礼あまよりさし追掛らるる馬をのりさく。
木の根岩の稜より付く山を起りて逃んとするも張苞を
るるのぞく。ささきさるる馬をさしせ只一頓もささまん。一鞭を
かき追掛けしと乗たる馬岩をさしまがれ。張苞のりあがら谷
の底に落たりけり。蜀の兵をさめあつて。ささきさるる救ひ回けるが。
岩稜に打とく張苞頭を損じけしと孔明成都に送て病
を養へし。郭淮孫礼へ辛き命を扶り。ささきさるる本陣に
回く。右の由を告げしと司馬懿大にささきさるるひて曰く。全く御

辺ホが罪ありしを孔明が智謀より先あり再び兵を引く雍
郿の二城をまのりし我別な敵を破るの計あり郭淮孫
礼二手に分ると出けし司馬懿をあたち張郃戴陵をよ
んで曰く今孔明あらざる武都陰平の二城を攻取らざるの
民を定めおのけん為み行りて事を理むべし志ると見
へ祁山の本陣より自余の大將をよめて守らざる汝二人
かのく二万余騎を率して今夜くらまぎと志のんで祁山の
後へまひ共よ力を并て攻破し我みけり大軍をよめてを
の前を攻ん志るとたへ敵前後を度と失ひ尽く乱るべし若
祁山の要害を取らば孔明のけり退くべし張郃戴陵計を
受左右に分ると谷の間をよけけるが夜の三更より兩軍はとく

出あひいざや攻んとて蜀の陣の後よりあぐくと入けしを校
百の車も柴を稠で細路をよまぎり通るべき様ありし張
郃も志とるま是より孔明がかりとあらん早く退
けとて下知するあり勿心然とて鼓の音天をひき四方八面
とくく火の出蜀の伏兵一度も起さず魏の勢を直中より去
る孔明山の上よりありて大音をよびけり張郃戴陵もが
言をまけ司馬懿も武都陰平を行く民を安んずとのと
まろよ在りと料く汝二人を後より回し却て疾んで攻んを
をもも降人を出よ一命を助けんと罵けし張郃怒て汝
乃ち山野の匹夫何ぞ受て來て我大國の境を犯せる我今汝を
擒よし微塵もよびて棄んとよべり馬を打て真平地上ら

水の南に陣と取て一人も出ざりけり。孔明は十分打勝敵の奔たる馬物の具ととりあひ本陣を回し諸軍を賞し魏延を遣し毎日戦ひせしむせども魏の勢はたき守りてすこ半月をかりてとるけり。孔明は一日を送らば味方より運送の勞とて兵糧の事と欠人如何とせしと議せり。成都より侍中費禕勅を兼りて使たり。孔明乃ち香を焚きて生む久礼了と詔をまきその詔を曰く街亭之役公由馬謖而君引愆深自貶抑重違君意聽順所守前年耀師截斬王雙今歲爰征郭淮遁走降集氏羌復真二郡威震凶暴功勳顯然方今天下騷擾元惡未梟君受大任幹國之重而久

自挹損非所以光揚洪烈矣今復君平相君其勿辭
建興七年夏六月日詔

孔明詔ときいてやけり我國事いかにあらむ安んぞ丞相の職を復ららん費禕が曰く今も受むらんべりくの將士にお心と冷淡してその功を失はんとて再三をなすまらば孔明もあはち丞相の職を受恩と謝し費禕を回ししゆいせさらば珍しき一軍して諸人の眠とたまさんとて計ごとく定て諸大將を觸ゆる陣屋を収めて固く回し魏の兵の由とやめくまらぬ司馬懿を告げ且司馬懿が曰く孔明もあらむ大なる計あらん追掛ちる計の中らんよく守て出る事ありと張郃が曰く且も定めて蜀の勢乃兵糧は

武昌の
 南郊の
 壇をま
 つき孫
 権の皇
 帝の位
 なる



續本通作三國志七編卷之一

すりて回るあそび。まろ又追うけて。一騎もあまさを討取ん司
 馬懿が白く無用く。我量よ去年豊年ちりし。今年麥又
 熟せり。孔明が兵糧満足なり。志くれども山路をあるべし。險阻
 ありて。常運送よ。勞をも我推量する。今孔明が陣をおこ
 半年の兵糧あらん。志ろ死と死の安んぞ。ありぞ。まろ回らんや
 ず。まろちりす。久しく出く。戦ふざる。退屈しく。此計にて我
 と欺むま出しく。伏兵の陣にて。討とちあらん。ひそく人を出
 しく伺へし。孔明を三十三里志り。ぞいて住たりとす。
 司馬懿が白く。料よ孔明ちあら。退く。只す。要害と
 まの陣で出る。とあられと。已に十日む。つと。怪まども。蜀の
 勢の消息も。あかりけ。又人を出して。見せしむる。蜀の兵

まで。遠くまり。ぞきたり。とや。司馬懿疑ひ。とや。自ら衣
 せ。きえて。士卒と共に。出さ。ひそく。蜀の兵。又三十里志り
 ぞきたり。司馬懿本陣を。回。謀の大將。む。つと。曰く。され
 とも。孔明が計あり。ちあら。追工。あら。又十
 日。あ。り。経。人。を。ひ。せ。し。む。蜀の兵。又三十里退
 いて。住。し。と。や。張郃。を。出。す。曰く。孔明。緩兵の計。と。を
 用。ひ。て。志。れ。り。退。く。あ。ま。り。疑。ひ。を。ち。り。て。追。め。ぬ
 ぞ。今。の。追。ぎ。ん。天。の。人。乃。笑。草。と。あら。ん。某。後。が。か。へ。し
 軍。を。引。て。討。止。ん。司馬懿。が。曰く。孔明。の。計。ま。へ。て。多
 ち。の。ち。り。り。追。う。けて。その。計。み。あ。ら。べ。味。方。の。銳。氣。を。失
 ち。ぬ。し。ち。あら。を。輕。く。し。追。工。あら。れ。張郃。が。曰く。都督。の

追うらまのまでも一軍を引て追入若らち
負て回あべかちらま軍法あがららん司馬懿が白く御辺志
ひて追んこと望むまらら兵を二手に分け御辺二軍をひ
いて真先まらら力を尽し攻戦へまら自ら精兵を率
て後陣を続んまら首尾相應むの計ち御辺
明日を打立半途より陣を居一夜馬の足を休ち次の
日追付く戦ひを決せよまらと軍馬疲れまら力
強しといひけまら張郃大まら戴陵と共にまら
る精兵三万余騎を率してまら半途に出る住りければ
司馬懿の大勢を残して本陣を守らせまら五千余騎
を扱んで後陣まで続きける孔明の志まら引退休ま

えせけるが路まらひそるま人を伏し置く魏の勢の追来るを伺
せけるまら日張郃半途に出る陣を取合戦へ明日と定
むと告来し孔明急ぎ大將をあめて曰く今魏の勢追
きたるかちらま命令をまら戦へまら汝も明日の合戦味
方の一入敵の十人あま程のまらまら叶す其ときま
ら却りて伏兵をめぐりて敵の後をまらまら智勇共
みまらりたる大將あらまら用ひまら志まらら
魏延が顔をとるま魏延首を低くまら云まら忽ち王平
まら又出某袖まら敵まら當らんとまら孔明が
曰く失あらば如何せん王平が曰く身を棄てて國を報ま
失あらば首を献ららん孔明嘆く曰く王平の蘆の忠臣之

身とてとく矢石を冒す。真又良將の才あり。志うれども魏の
 勢二手を分して前後より来る。まらざる我伏勢を夾さん
 ぞ攻ん王平まこと智勇ありとくども争り身を分て前
 後の大敵にあたるを得ん。今一人の大將を副んとあつた
 る。如何せん軍中。身と棄て敵にあたり我大計を
 おさしむべき人ありといひけむ。又一人とて生く曰く某祿
 がくへ行ん。諸人まらざる前軍都督張翼あり。孔明が
 曰く張郃の魏の名將万夫不當の勇あり。汝張郃が對手にあ
 らざる。張翼が曰く。失あらし首を獻らん。孔明が曰く。汝已
 行ん。ととのぞむ。まらざる王平とちのく。二万余騎を率して
 山の後伏匿し魏の勢乃通まぐるを待て。討て出で跡を遮れ

〇司馬懿が後陣の勢きたらば。そのとれ二手を分して王
 平へ前なる敵と拒ぎ。張翼へ後なる敵と拒げ共志を激
 して命とらぎり戦へ。別計とせめて敵を破ら
 ん。王平張翼計を受けて出けむ。孔明又姜維廖化をよ
 んで曰く。汝二人は錦の囊をわめて。ちのく三千余騎をひ
 きひ旗とせ鼓と息て。前なる山の巔に埋伏し。魏の旣も
 一王平張翼を囲んで十分危きとたに至らば此囊をひ
 らまきこむ。ちのく敵を破るの計あらん。二人計とせりけ
 て出けむ。六次は呉班。馬忠張嶷をよひよせ。ひそる中
 ら。明日魏の勢攻来らば初の程に銳氣をあげ盛んに中
 中鋒に當りたれ。汝ホあるひへ戦ひ或は退き。関真が

討て出たるをこへ一度まきつて回しと。まきつて戦へし又兵
と生して力を助くべし。四人の大將計を受く志りぞきければ
孔明又関真をよんで曰く汝へ五千余騎を引て谷の間は深く
隠れ只山の上より。紅の旗を動かさず見ればまきつて出て敵を
討して手配をせよ定けし孔明も山に登り望みし
る。去程は魏の大將張郃戴陵は三万余騎の精兵を引てその
いそぎに猛風のどく。勇もどりて追うけ喊の声やあげれば
蜀の勢鼓を鳴して討て出たり。張郃もよこせしと奮威將
軍馬忠撫戎將軍張嶷左將軍吳懿安樂侯吳班四手をわら
きて陣を張魏の勢いさへ進んで此もたれらるを喚てりけ入り
さんぐは戦ひけしと蜀の勢あり戦ひ或は志りなき二十里ある

り走りけしと魏の勢勝すのゆゑ息をも継ぎ追蒐六月中
旬の事あり六流る汗泉のどく。又五十里あり追蒐て暫
人馬を息せんと。大息継てひつなり孔明へ山の上より
魏の勢のよ疲れを撓らふをえし紅の旗を揺りけしと関
真五千余騎を谷の内より討て出たり。あまをて蜀の大
將馬忠張嶷吳班吳懿尽く取て回しければ張郃戴陵
又喚ひて蒐り。討て討て火を散し。追ひ返りし時移る
まで戦ふも又喊せしと造る。二手の兵討て出魏の勢の
後でさんぎりて。餘さすと取らむ。是をあら蜀の牙門將裨
將軍王平。前軍都督張翼あり。張郃もよこせしと大音あ
げ。諸軍のとたし命を捨むらん。何の時を期せんとまきつて味

方後陣の大勢近付ぬらん引まくと勵して自ら勇を振ひ
威を逞志みし。おちき叫んで十方にあたり。頑更に變化して利
兵堅く碎き二時あり戦ひける。敵味方と討またる者扱
てあらむ。血へ混るとして馬蹄をけとて。屍を墨くとして山の
し。さきとも蜀の勢へ生手にて。八方より入替く攻けし。魏の
三方余騎を戦ひ疲れて。引色をとりたる。忽然として
鼓の色天をひびき。喊の色地を動して。一彪の軍馬討てかふる。これ
をあらち魏の大都督司馬懿あり。生手を以て王平張翼がう
ろと圍けし。張郃戴凌又色を直して。さんぐに攻戦はま
じて張翼大音あげて。中ける。諸葛丞相の計も出た。かあら
も我ホと救ひる。人謀軍命を棄て戦へとして。兵を二手ま

のと引分み。けり。司馬懿が勢と戦へ。王平へ張郃戴凌とた
ひ。叫殺天を連り。互ひに引まると耻しめて。何を以てし。と
ざりけり。まよ。姜維と廖化と。二手の勢を合せ。六千余
騎をとり。山の頂に伏し居たり。遠く合戦の体と
る。魏の勢力大にして。蜀の勢疲まると。之にけし。あ
がら居て。味方の弱仕出たる。由あり。いさや。今へ錦の囊と
ひらき。けんとして。二人ひそる。是をん。司馬懿兵を引
王平張翼と圍む。汝二人の二手を分て。直に司馬懿が溜
水の本陣を攻め。れ。司馬懿を走らむ。長安の破る。んと
始。あてふ。走る。その虚を乘く。是を伐む。を陣と
うをひ得む。十分の利を得べし。と書たり。二人大に喜ぶ。

丞相の神計果して此のごとくして。二手に分きて涪水の陣
よおしよまると。司馬懿へ元より孔明が計と怖る。略こまたへ
人とのあつて跡の様子ときまはくろひひる。前なる軍強して
入り乱れて戦ふ。又追々早馬きたり。蜀の勢二手に分れて
本陣を攻ると告げよ。司馬懿色と失ひ。さよばあを孔明
が計よ落さよたり。我ホあぬりよ長追して本陣を敵取
れば如何して生残るとのあらん。今へ回るとのい程そあ
る。まげら馬と飛して走けよ。魏の勢魂を失ひ。膽を冷
甲盈と加まぶり奔く。我先よと引回さ。さよよ氣を得て蜀
の大勢息とも。継を追うけよ。張郃戴陵も。さり少よ討
れ。さよくよ走りける。関真王平ホ手志げく追て。十分よ

打勝けよ。軍のさよまぞ。この長追おせよとして。さあ引る
へして孔明よ見ち。司馬懿へ本陣よ逃入敗軍とあつてや
ける。魏將よ兵法とあらま。只血氣の勇と持んで我命
と用ひ。却るさの敗と取ま。今すりのち。安よ動くも
のあらぶ。あつて軍法と正さんと怒りけよ。魏將よ蓋
怖して退生と。さの日の合戦よ。魏の大將の討きたる。その其
叔まへめて多く。史上記とよ暇る。孔明へ十分よ戦ひる。れ
て。敵の奔たる馬物の具と取あ。魏軍を賞して再び
さよまんとさる。成都より早馬きたり。虎翼將軍張苞
破傷風卒よ治せ。相果たりと告る。孔明。是を聞て。舌を
放て。大よ哭き。血を吐て昏絶と。魏人扶け起しけよ。暫あつ

て蘓生さるより病を得て床の上より伏しけり。諸將を
 感激して危き事といふものなり。其後十日あやうを經て孔
 明ひそく董慶樊建ホとよんでやける。我ちのへざるは
 病を受け昏沈して軍事を理る事あるを汝ホウもる。人
 人志らしむる事あり。司馬懿のきくはかるら急
 攻来らん。志す下暫く漢中へ去りて病を療む。後再び
 出んとす。大將を觸れしめて。今夜の内より引と
 せよ。一夜の中へ盡く漢中へぞ入る。後五日ときて司馬
 懿をどめてその事をきく。大に嘆じてやける。孔明まこと神出
 鬼没の計あり。我及ぶる事あり。諸將を分けて要害を
 守らせ自ら洛陽へ上りける。孔明さる志は漢中まで退

ま。成都を回りけり。文武の百官尽く土む。送りて
 丞相を扶け入る。天子は病を問御医を命ト
 て治療を尽させしめ。追々快驗を得たりける。

繪本通俗三國志七編卷之壹終

